



快適な白銀荘

## 北海道 富良野岳G尾根、美瑛富士

——中村、坂村

【日時】2010年1月23日(土)～26日(火)

【メンバー】中村(L)、手嶋、田辺(利)、坂村、池田

【1日目】1月23日(土)：大雪ロープウェイスキー場 [雪]

朝一の便で旭川に飛び、レンタカーを借りて大雪方面へ。途中の上忠別に行くつもりであったが、密集する林の姿を目の当たりにして、ゲレンデに転進。「大雪ロープウェイスキー場」はゲレンデといっても、ロープウェイが1本あるだけの半分BCのようなスキー場なので、こちらも一度は体験しておきたかった。

ロープウェイは20分間隔で運行されており、30分で山麓駅に戻りそこで10分休憩というローテーションで、効率よく滑ることができた。雪はさすがの大雪、空気のように軽い。一応、圧雪されたコースがあるが、ここに来る人はそんなところを滑る人はおらず、みんな新雪を求めて、あちこちの斜面に入っていく。我々もそれに負けじと、パウダーバーンを探した。中でも最後に滑ったところは最高で、斜度35度以上で、底なしパウダー。50mくらいの斜面であるが、ロングターンが決まりとても楽しかった。

【2日目】1月24(日)：富良野岳G尾根 [曇]

駐車場には既に何台か車が停まっていた。この人たちもきっと富良野岳に登ったに違いないと話しながらスキーを担いだ。車道を少し下ってヌッカクシ富良野川の堰堤に向かって歩く。広い河原で水の流れが2本に分かれていたので、2回渡渉することになった。登る前に靴下を濡らしてしまうわけにはいかなかったので、慎重に石を踏んで歩いた。渡渉が終わってようやくスキーを履く。辛いラッセルが待っているかと思ったら、先行者のラッセル跡がしっかりとあったのでありがたく使わせていただく。ところが、この日の雪はどのようなわけかやたら滑る。たいた斜度ではないのにシールがなかなか利かず、ふんばりながらの登りとなった。暫く行くと後ろからラッセルしながら歩いてきた人が追いついてきて、このラッセル跡は昨日自分が付けたのだと言った。私たちもラッセル跡を利用するのをやめ、新雪の上を歩くことにした。



空気のようなシルキーパウダー (坂村)

森林限界を超えると風が強ク吹いた。視界も良くない。フードを被ってネックウォ

一マーで頬をカバーして歩く。風が強かったし、先行者のルートもそうになっていたの  
で尾根から外れてG尾根方向にトラバースした。先行者はトラバース途中で滑り降りた  
ようだったが、私たちは予定していた到達点まで登ることにした。途中で中村さんと  
手嶋さんがピットを掘って雪の状態を確かめた。弱層はあるがこの程度ならば大丈夫  
だろうという判断だった。スコップやスノーソーを使ったピット掘りは見たことあっ  
たが、手だけで簡易的に掘るのを初めて見た。手嶋さんがやり方を教えてくれたが、  
うまくできなかった。今度また教えてもらって自分でもできるようになろう。尾根の  
上は広く、開放的だった。

滑るルートとしては、下に向かってG尾根の右横の沢に入り、沢が深くなる前にG尾  
根に上がるルートで滑ることになった。滑り出しは少し雪が重かったが、上々のパウ  
ダーだった。残念ながら視界が悪かったので思い切り良く滑ることはできなかったが  
十分満足できる状態だった。更に滑ってゆくと、視界が良くなり、雪もどんどん軽  
くなり、勝手に笑いが出るほどの良い状態になった。しかも他パーティが滑った跡が  
ない。まさに天国！（写真）。これがあるからこの遊びをやめられない。森に入ってか  
ら木の間隔はほどよく、雪の状態も変わらず良く、あっという間に渡渉地点まで戻  
ってきた。（坂村記）

### 【3日目】1月25日（月）：白金温泉～美瑛富士 [曇／雪／晴]

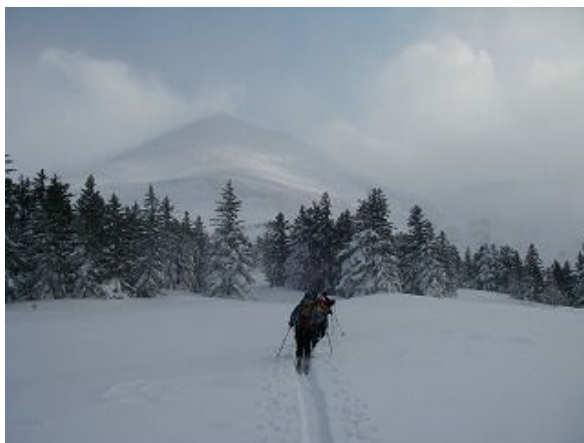
時間的に最も余裕のある3日目は少し山深い場所を選んだ。入山口は、宿泊場所の白  
銀荘から夏ならわずかに30分の距離であるが、冬季通行止めのため国道まで下りて大回り  
をして、白金温泉奥の除雪終点に8時頃到着。

しばらくは車道沿いを歩き、林道に入る。この林道は緩やかな登りで一直線に続く。  
トレースはなく、全員で交代しながらラッセルで進む。登山道との出合に到着する頃、

曇りだった天気が激しい雪に変わるが、折角ここまできたので先に進  
むことにする。

沢型を少し進み、左側の尾根に取り  
付く、雪はまずまずのパウダーで  
ある。尾根に乗ると、登山道に沿  
って歩くが、斜度がない尾根だ。雪も  
そこそこ深いので帰りは滑らない  
かもしれない。

1141標高点を過ぎると、霧の目の  
前に美瑛富士の姿が現れる。「富  
士」の名前が付いているだけあり、



美瑛富士

山容が美しい。歓声が上がる。（写真）

森林限界を超えると、吹きさらしのためウインドクラストとなる。ラッセルから開放



され、ペースが上がる。1400mを越えると斜度もきつくなり、この雪質では滑りも楽しくないので、この辺りで終了とする。

さてどこを滑るか。沢型の方が雪が良さそうなので、登ってきた尾根の北側の沢型を滑ることにする。その沢型に向けて滑り始めるが、ウインドクラストで波打っており滑りにくい。その後は最中雪へと変わり、悪雪が続く。

沢型に入ってみると、風の影響がなくなり雪は良くなった。しかし、斜度がないため、部分的急になったところだけしか楽しめない。やや左寄りに進路を取らなければならぬので、GPSを駆使しながらコンパスの方位を定めて進んでいく。最後の標高差100mくらいは、斜度雪共に良く楽しめた。登ってきた林道に合流し、林道のトレースを滑り降り、最後の車道はスケーティングで駐車スペースへ戻る。

このルート、記録が無いのが分かったような気がする・・・。

【4日目】1月26日(火)：富良野スキー場 [曇／雪／晴]

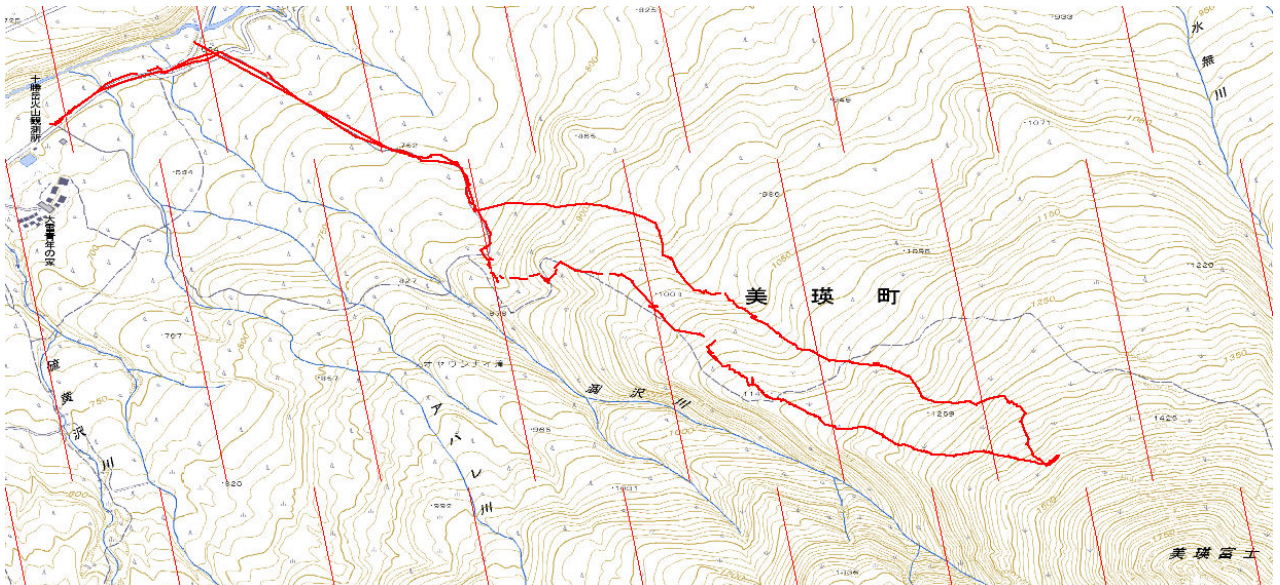
この日は三段山の予定であったが、天気が良くないので富良野スキー場へ。非圧雪コースを楽しみ、北海道のパウダーを満喫した。

【地形図】旭野、白金温泉、本幸、十勝岳

【行程】

1/24 駐車スペース(8:50)～G尾根の頭1680m(11:52/12:13)～駐車スペース(1:38)

1/25 白金温泉(8:13)～美瑛富士1440m地点(12:09/12:21)～白金温泉(1:58)



美瑛富士（登りは尾根上、下りは沢型）